

K U D O N E W S

第37期 中間報告書 自平成19年7月1日 至平成19年12月31日

第22号

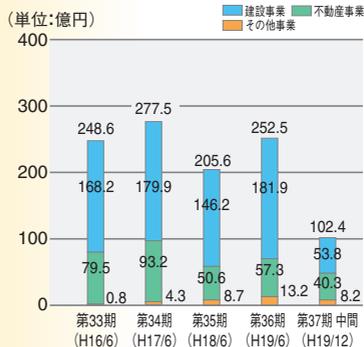
私たちは、常に時代を読み、新しい市場・技術・サービスを開発し、
フローレンスブランドを確立します。



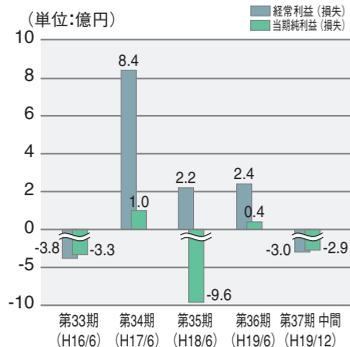
工藤建設株式会社

	第33期 (H16/6)	第34期 (H17/6)	第35期 (H18/6)	第36期 (H19/6)	第37期 中間 (H19/12)
	(単位：億円)				
売上高	248.6	277.5	205.6	252.5	102.4
経常利益 (△経常損失)	△3.8	8.4	2.2	2.4	△3.0
当期純利益 (△当期純損失)	△3.3	1.0	△9.6	0.4	△2.9
総資産	226.4	206.8	195.5	188.1	155.4
株主資本	34.1	33.9	22.4	22.2	19.0
	(単位：円)				
1株当たり					
純資産額	263.08	261.20	184.81	182.90	154.59
当期純利益 (△当期純損失)	△26.03	8.38	△74.25	3.19	△22.79
配当金	10	10	5	5	—

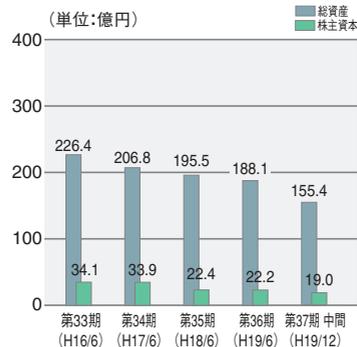
■ 売上高 (部門別)



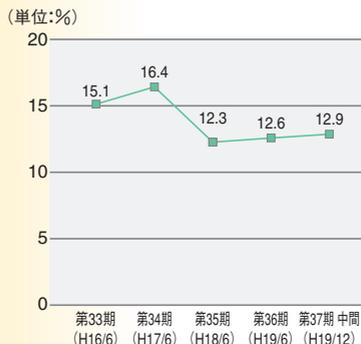
■ 経常利益 (損失)/当期純利益 (損失)



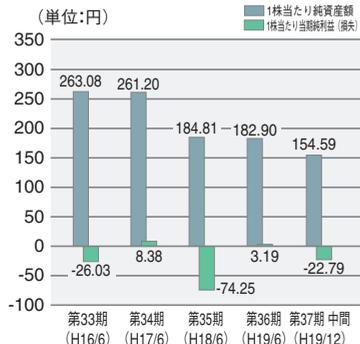
■ 総資産 / 株主資本



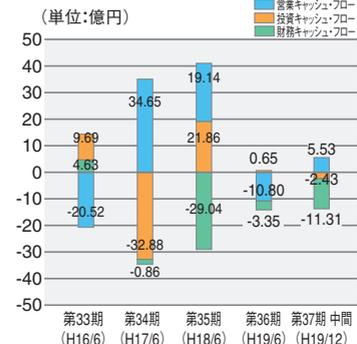
■ 自己資本比率



■ 1株当たり純資産額 / 1株当たり当期純利益 (損失)



■ 連結キャッシュ・フロー





代表取締役社長 工藤 英司

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当中間連結会計期間における我が国経済は、輸出や生産の堅調さを支えてきた海外経済が、米国サブプライム住宅ローン問題の発生などにより米国を中心に減速傾向をたどりました。

また、このような景気後退の懸念、ガソリン価格高騰、そこから波及する商品価格への影響など

から個人消費も低調な推移となりました。

当社グループが属します建設業界におきましては、従来からの公共投資の減少に加え改正建築基準法施行に伴い建築着工件数が急減いたしました。この影響は、関連業種にも及び、生産調整を余儀なくされる事態が発生しております。

このような情勢のなか、当社グループは、神奈川・東京を営業エリアとし、「地域の人々に対して全ライフステージにわたって居住し続けられる“住まい”を提案する」ことの事業展開をはかってまいりました。

建設事業における民間工事部門におきましては、賃貸マンションのオーナー様による「賃貸経営オーナー会」との定期的な親交を中心に地域密着の営業を行い、自社設計・施工を基本とした品質重視の建設を行なってまいりました。大型地下室付き住宅「フローレンスガーデン」のお客様をご招待した「フローレンスガーデン祭り」を10月に昨年に引き続き開催し、当社のファンの拡大をはかるとともに、今後のリフォーム市場の開拓への動きも行なってまいりました。9月にはフローレンスガーデン事業部の練馬営業所を開設し営業活動の県外へのエリア拡大を開始いたしました。

また、お客様に対する一層のサービス向上と、社内体制の強化を目的とし、子会社である(株)日建企画の建物管理部門を10月に吸収合併いたしました。

平成15年より開始いたしました、その他事業における「高

齢者福祉事業」につきましても、「フローレンスケアたかつ」「フローレンスケア美しが丘」「フローレンスケアたまブラザー」「フローレンスケア港南台」「フローレンスケア宿河原」「フローレンスケア聖蹟桜ヶ丘」の6施設で、計294室に住まう方々、そこに集う人々を、190余名のスタッフが「思いやりの心と確かな介護技術で介護高齢者の明るい未来を」の事業理念のもと、支援させて頂いております。

当中間連結会計期間における当社グループの連結業績は、次のとおりとなりました。売上高は102億49百万円（対前年同期比20.1%増）、経常損失は、3億3百万円（前中間連結会計期間経常損失3億14百万円）そして、中間純損失は、2億95百万円（前中間連結会計期間純損失3億65百万円）となりました。

これを事業別のセグメントで見ますと、建設事業につきましては、売上高53億83百万円（対前年同期比9.9%減）、営業利益は、1億37百万円（対前年同期比18.4%減）となりました。不動産事業につきましては、売上高40億38百万円（対前年同期比112.2%増）、営業損失は、16百万円（前中間連結会計期間営業利益32百万円）となりました。また、その他事業につきましては、売上高8億26百万円（対前年同期比27.2%増）、営業損失は、76百万円（前中間連結会計期間営業利益20百万円）となりました。

次に、当社単独の業績といたしましては、売上高は100億55百万円（対前年同期比49.0%増）、経常損失は、2億93百万円（前中間会計期間経常損失3億39百万円）、そして中間純損失は1億87百万円（前中間会計期間純損失3億61百万円）となりました。

当社は、利益分配につきましても、企業体質の強化・充実並びに将来の事業展開等を勘案し、また、安定的かつ継続的に利益還元を行うことを基本方針としております。

当中間期におきましては前期末にご報告させて頂いたとおり、配当を見送らせていただき、年間目標を達成させることで、当期末配当予想を5円とさせて頂きます。

建設業を取りまく環境は、依然として厳しい状況にあります。当社グループは、事業競争力、収益力の一層の向上に向け、一丸となって努力を続けてまいりますので、株主の皆様におかれましては今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

お客様の多様なニーズにお応えし、 戸建て住宅事業を強化します。

戸建て住宅建築を希望されるお客様の様々なニーズにお応えするため、魅力的な商品の企画や品揃えを拡充していきます。

フローレンスガーデン事業部

地下室・2×6・輸入住宅



～【住みがい】増幅中～

単に品質の高い住まいを提供するだけではなく、住まいを持続・成熟させていくためのサポートや様々なサービスを提供し、お客様に「住みがい」を持ち続けて頂くこと。

それが、「フローレンスガーデン」の使命と考えます。

昨年9月には練馬営業所を開設し、ますます住みがいを増幅させております。



町田市/A氏邸



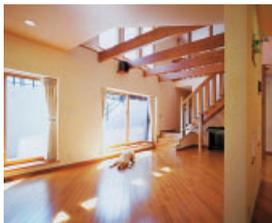
横浜市/M氏邸

作りたいのは、永く愛され続ける家

私たちが、多様なデザインの家を作るのは、住まう人の想いに応えたいから。価値あるデザインの家は、永く大切にされ、時代を超えて生きます。



地下室/ホームシアター



地下室/リビング

大型地下室付住宅、施工実績1,000棟

欧米で見られるベースメントと同じスタイルで作られる地下室は、趣味室や書斎・ゲストルームなどいろいろな使い方が考えられ、ゆとりあるワンランク上のライフスタイルを可能にします。



練馬営業所



本社ショールーム



本社ショールーム 0120-045910 ヨコハマクドール
 練馬ショールーム 0120-514910 イツモイヨクドール

検査キーワード「地下室」、表示順位No.1継続中
<http://www.florence-garden.com> (輸入住宅サイト)
<http://www.ground-room.com> (地下室サイト)

特建事業部

～地下で快適に暮らす??

これまでのイメージを覆す住宅～

住宅の密集した都市部においてもリゾート地に居るかのように光と風を感じて暮らすことが出来たら・・・

自由設計により地下での快適生活を実現した「RC構造」。

家族のプライバシーを守り、道行く人の視線を気にすることなく開放的な生活を送ることが出来る。ドライエリアでもあるパティオからやさしい光が差し込み、地上と同様心地よい風が通り抜けます。

地下にLDKを配したモデルハウスをOPENしております。

是非一度モデルハウスにお越し下さい。

特建事業部へのお問い合わせ

TEL 045-910-0506

ホームページ <http://www.la-riviera.jp/>



MUJI+INFILL事業部

暮らしに合わせて「快適な一室空間」を編集する。

シンプルで自由な「無印良品の家」

シンプルさの中に上質な暮らしを提案する
地震に強い、設計の自由度が高いSE工法を採用

「無印良品の家」は地震に強いSE工法で柱と梁を頑丈なSE金物で強結し、骨組み全体で建物を支えるため、従来の木造住宅より遥かに丈夫で、柱や区画の壁の数が少なく明るい光を取り入れる大きな開口窓や広々とした気持ちのいい吹抜け空間が安全に実現できます。



「人と、ひとつながりの家」木の家



強く柔軟な
「無印良品の家」

無印良品の家「木の家」横浜都筑店
横浜市都筑区茅ヶ崎中央56-12
フリーダイヤル 0120-6404-15

ムジルシ イコー

■ 中間連結貸借対照表（要旨）（平成19年12月31日現在）

科目	当中間期	前中間期
		(単位：百万円)
(資産の部)		
流動資産	7,064	11,007
固定資産	8,482	8,766
有形固定資産	4,133	4,131
無形固定資産	128	256
投資その他の資産	4,221	4,378
資産合計	15,547	19,774
(負債の部)		
流動負債	9,024	12,959
固定負債	4,516	4,530
負債合計	13,540	17,489
(純資産の部)		
株主資本	1,901	1,850
資本金	867	867
資本剰余金	549	549
利益剰余金	570	519
自己株式	△86	△85
評価・換算差額等	105	161
その他有価証券評価差額金	105	161
少数株主持分	—	272
純資産合計	2,006	2,284
負債・純資産合計	15,547	19,774

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結損益計算書（要旨）（自平成19年7月1日 至平成19年12月31日）

科目	当中間期	前中間期
		(単位：百万円)
売上高	10,249	8,531
売上原価	9,588	7,373
売上総利益	660	1,157
販売費及び一般管理費	835	1,329
営業損失（△）	△174	△171
営業外収益	26	15
営業外費用	156	158
経常損失（△）	△303	△314
特別利益	96	7
特別損失	94	0
税金等調整前中間純損失（△）	△302	△307
法人税、住民税及び事業税	3	21
法人税等調整額	△9	31
少数株主利益（△）	—	△4
中間純損失（△）	△295	△365

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（自平成19年7月1日 至平成19年12月31日）

科目	当中間期	前中間期
		(単位：百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	553	△1,915
投資活動によるキャッシュ・フロー	△243	276
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,131	△279
現金及び現金同等物の増加・減少額	△820	△1,919
現金及び現金同等物の期首残高	2,304	3,655
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,484	1,736

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間 (自平成19年7月1日 至平成19年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成19年6月30日 残高	867	549	893	△86	2,224	150	305	2,680
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△32	—	△32	—	—	△32
中間純損失(△)	—	—	△295	—	△295	—	—	△295
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0	—	—	△0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)	—	—	5	—	5	△45	△305	△345
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△322	△0	△322	△45	△305	△673
平成19年12月31日 残高	867	549	570	△86	1,901	105	—	2,006

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 事業の種類別セグメント情報

前中間連結会計期間 (自平成18年7月1日 至平成18年12月31日)

科目	建設事業	不動産事業	其他事業	計	消去又は全社	連結
(単位：百万円)						
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する 売上高	5,977	1,903	649	8,531	—	8,531
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	6	—	6	△6	—
計	5,978	1,909	649	8,537	△6	8,531
営業費用	5,809	1,877	628	8,315	388	8,703
営業利益又は営業損失(△)	169	32	20	222	△394	△171

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

当中間連結会計期間 (自平成19年7月1日 至平成19年12月31日)

科目	建設事業	不動産事業	介護事業	其他事業	計	消去又は全社	連結
(単位：百万円)							
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	5,383	4,038	824	2	10,249	—	10,249
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	93	—	—	—	93	△93	—
計	5,477	4,038	824	2	10,343	△93	10,249
営業費用	5,339	4,055	894	7	10,297	126	10,423
営業利益又は営業損失(△)	137	△16	△70	△5	45	△219	△174

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 1 事業区分は内部管理上採用している区分であります。

2 各事業区分に属する主な事業内容

- (1) 建設事業：建築・土木その他建設工事全般に関する事業
- (2) 不動産事業：不動産売買、賃貸に関する事業
- (3) 介護事業：高齢者福祉事業
- (4) その他事業：保険代理店業等

3 当中間連結会計期間における営業費用のうち消去又は会社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は224百万円であり、その主要なものは、提出会社本社の経営管理部に係る費用であります。

■ 中間単体貸借対照表（要旨）（平成19年12月31日現在）

科目	当中間期	前中間期(参考)
	(単位：百万円)	
(資産の部)		
流動資産	7,065	9,385
固定資産	8,377	8,325
有形固定資産	4,067	3,901
無形固定資産	128	142
投資その他の資産	4,182	4,281
資産合計	15,442	17,711
(負債の部)		
流動負債	9,024	11,591
固定負債	4,512	4,292
負債合計	13,536	15,884
(純資産の部)		
株主資本	1,800	1,673
資本金	867	867
資本剰余金	549	549
利益剰余金	470	342
自己株式	△86	△85
評価・換算差額等	105	153
その他有価証券評価差額金	105	153
純資産合計	1,906	1,827
負債・純資産合計	15,442	17,711

■ 中間単体損益計算書（要旨）（自平成19年7月1日 至平成19年12月31日）

科目	当中間期	前中間期(参考)
	(単位：百万円)	
売上高	10,055	6,748
売上原価	9,481	6,246
売上総利益	574	502
販売費及び一般管理費	751	707
営業損失(△)	△177	△204
営業外収益	25	17
営業外費用	141	151
経常損失(△)	△293	△339
特別利益	186	7
特別損失	91	—
税引前中間純損失(△)	△198	△331
法人税、住民税及び事業税	3	3
法人税等調整額	△13	26
中間純損失(△)	△187	△361

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間株主資本等変動計算書

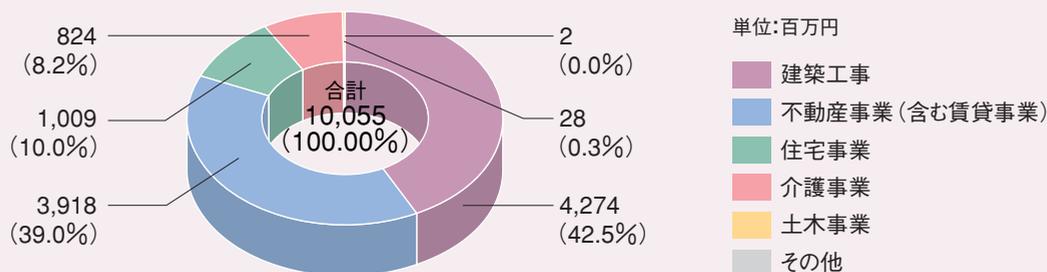
当中間会計期間 (自平成19年7月1日 至平成19年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計				
		資本 準備金	利益 準備金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金					
平成19年6月30日 残高	867	549	149	—	1,200	△658	690	△86	2,021	140	2,161
中間会計期間中の変動額											
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△32	△32	—	△32	—	△32
中間純損失 (△)	—	—	—	—	—	△187	△187	—	△187	—	△187
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	△0	△0	—	△0
特別償却準備金の取崩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△34	△34
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	△220	△220	△0	△220	△34	△255
平成19年12月31日 残高	867	549	149	—	1,200	△878	470	△86	1,800	105	1,906

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

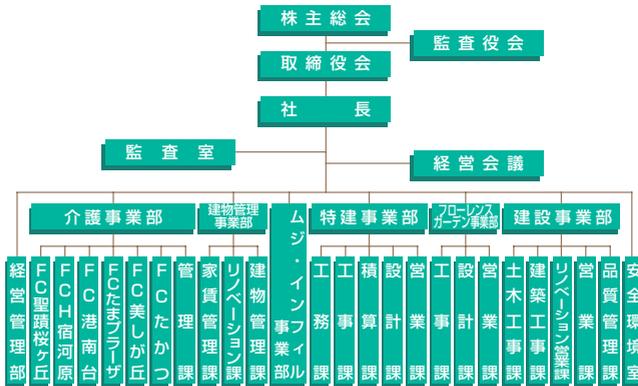
■ 単体売上高構成比



■ 会社概要 (平成19年12月31日現在)

商号	工藤建設株式会社
設立	昭和46年7月1日
代表者の氏名	工藤 英司
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
従業員数	378名 (男子 211名、女子 167名)
事業所	
本社	横浜市青葉区新石川4-33-10
東京支店	東京都港区浜松町2-10-4 (イマス浜松町ビル7階)
多摩営業所	東京都町田市南大谷1327-153
戸塚営業所	横浜市戸塚区名瀬町2189-1 (プロデュースヨコハマ内)
フローレンスケアたかつ	川崎市高津区久未1744-2
フローレンスケア美しが丘	横浜市青葉区美しが丘4-43-4
フローレンスケアたまプラーザ	川崎市宮前区犬蔵2-17-65
フローレンスケア港南台	横浜市港南区港南台6-5-13
フローレンスケアホーム宿河原	川崎市多摩区宿河原6-12-29
フローレンスケア聖蹟桜ヶ丘	東京都府中市日新町5-53-1

■ 組織図 (平成19年12月31日現在)



■ 役員及び執行役員 (平成19年12月31日現在)

取締役相談役	工藤 五三
取締役会長	工藤 次郎
代表取締役社長	工藤 英司
取締役	栗原 正治
常勤監査役	阿久津 治男
監査役	八重沢 知正
監査役	奥原 章男
常務執行役員	神田 良雄
執行役員	石田 米治 (営業担当)
執行役員	工藤 隆司 (建設事業部長)
執行役員	工藤 隆晃 (建物管理事業部長)
執行役員	藤井 研児 (介護事業部長)
執行役員	小坂橋 洋之 (フローレンスガーデン事業部長)
執行役員	仁木 克己 (特建事業部長)
執行役員	山中 栄二 (ムジ・インフィル事業部長)

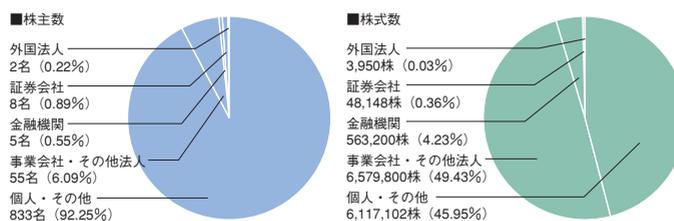
■ 株式の状況

発行可能株式総数	44,000,000 株
発行済株式の総数	13,312,200 株
株主数	903 名

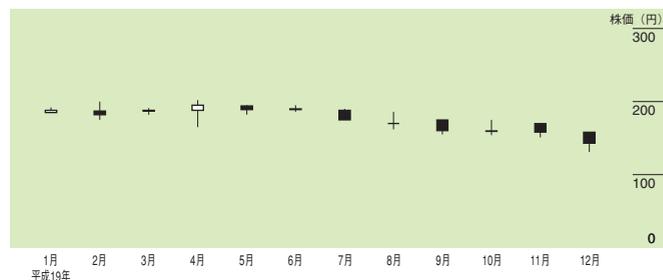
■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
株式会社トップ	5,720	42.96
工藤 五三	1,080	8.11
工藤 英司	559	4.20
工藤 隆司	558	4.19
株式会社横浜銀行	391	2.93
工藤 次郎	370	2.78
工藤建設株式会社	330	2.48
今 博文	193	1.44
八重沢 知正	190	1.42
株式会社三井住友銀行	114	0.85

■ 所有者区別株式分布状況



■ 株価チャート



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
基準日	毎年6月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
期末配当金	毎年6月30日の最終の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載または記録された株主（実質株主を含む）または登録株式質権者にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年12月31日の最終の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載または記録された株主（実質株主を含む）または登録株式質権者にお支払いいたします。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先・送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711（フリーダイヤル）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告。ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載。 公告掲載アドレス http://www.kudo.co.jp/



介護付有料老人ホーム
フローレンスケア
聖蹟桜ヶ丘



早いものでオープンしてから半年がすぎ、ご入居者も半数を超え、施設内に生活感と活気がでてまいりました。外出ツアーや日々のレクリエーション、そしてリハビリなどをしながら、ご入居者には楽しく毎日をご過ごしていただいております。これからも、スタッフ一同「心地よさ」を感じていただけるサービスに努めてまいりたいと思います。

お問い合わせは

工藤建設株式会社 介護事業部 ホームページ：<http://www.good-care.jp/>
 フローレンスケア入居相談室：【フリーダイヤル】0120-050-910

ホームページへのアクセスを
 お待ちしています。

情報満載！

工藤建設のWEBサイトは、お客様とのコミュニケーションのコアとして、充実した情報を提供。物件の紹介・販売にも大きな役割を果たしています。

<http://www.kudo.co.jp/>



この冊子に関するお問い合わせ先：工藤建設株式会社 経営管理部
 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 4-33-10 TEL 045-911-5300